

の減少時には、馬首漸く現出し、辛ふじて渡河し得べしと云ふ。予滯在中、故錫將軍の第二子、孝昌氏、其の他數名と轡を連ね、江岸に漁夫を求め、鮮魚を獲て之を食し、風流半日の閑遊を試みたり。

結伴連騎騁勝遊

一鞭直到大江頭

漁翁贈我新鮮鱸

放馬蘆洲枕碧流

伊犁の地紅錢三百八十文を以て、銀一兩と算す。烏魯木齊は、四百文、塔爾巴哈臺は三百六十文等、各地皆多少の差あり。

氣候は温和の候少く、寒暑共に酷烈なるも、天山北路にては、比較上適良の處たり。毎年極暑は七八月、最寒は十二、一月とし、凍氷は十一月末より、解氷は三月よりす。降雨は五、六、八、九月に限り、下種三月、收穫八月とす、四五月は西風多く、冬季は無風を常とせるも、若し之れあるときは、北風にして而も激烈なりと。予當地に留ること前後十七日、即ち五月十三日以降、同廿九日に至る。此間總て快晴、唯二十四日のみ西々北の風を起し、俄然曇天と爲りて、冷氣亦頓に加はり、昨日まで日中單衣を着せしも、俄然綿衣尙ほ冷を覺ゆるに至れり。